



APA PRESENTS 2021 KING'S&QUEEN'S プロボウラーズトーナメント

11月11~13日 サンスクエアボウル/東京ポートボウル



男子

志摩竜太郎が2年ぶり2勝目

女子

姫路麗が大会2連覇でV27

昨年新設された「APA PRESENTS KING'S&QUEEN'S」の第2回大会が11月11~13日の3日間、都内北区のサンスクエアボウル、同港区の東京ポートボウル(男子準決勝まで)の2会場に男子128名、女子116名のプロが参加して行われ、男子は志摩竜太郎(55期・川口スプリングレーズ)、女子は姫路麗(33期・フタバボウル)がそれぞれ優勝を飾った。(主催:(公社)日本プロボウリング協会/特別協賛:アパグループ)

優勝の志摩(左)と姫路

競技は昨年同様、男女とも予選12G・準決勝4G、さらにその上位各8名による総当たり8Gの決勝ラウンドロビン(RR)を経て、男子は1位・堀ノ内智大、2位・安里秀策、3位・志摩、女子は1位・姫路、2位・小林あゆみ、3位・中島瑞葵の順位でTV決勝進出を決めた。

表情ほころぶKING志摩

「みなさんに囲まれるのは桑田カップ以来。うれしいなあ」試合後の囲み会見。男子優勝の志摩は開口一番、そう言って表情をほころばせた。

10月12日、サンスクエアボウルで行われたシーズントライアルで5位に入賞し、今大会の出場権を獲得した志摩は予選・準決勝をとともに1位で通過。RRではそれまでのアベレージを17ピン余り下げながらも4勝してボーナスポイントを120加算し、TV決勝進出末席の3位に踏みとどまった。



▲度々のミスショットにも臆せずパワーボウリングを貫いた志摩。「まだ不安定な部分が多いので、そこをどんどん正していきたい」

「この大会に関しては昨年もいいところまで行っていないながら、体力不足で足が動かなくなって落ちてしまった(準決勝敗退=総合15位)。昨年の自分を超えるために、今回はしっかり準備をして大会に臨んだことが実を結んだと思います」

3位決定戦では「投げミスで」2度の⑨⑩スプリットを出した



▲(左)トップシードで1ピン差惜敗の堀ノ内。「ラウンドロビンもテレビ決勝も初めて。やるべきことは見えていたので落ち着いて投げることはできたけど...やっぱり悔しいですね」(右)プロ入り後初のTV決勝は3つのスプリットオープンで苦敗。「本番でのレーン変化は想定していたが、イメージ通りにはいかなかった」と安里

が、「相手も決してよくない感じだったので」と冷静に⑩ピンをテイクワン。ダブル2回、10フレパンチアウトでリカバリーし、今年度トップ合格新人にして「九州のジュニア時代の先輩」安里に投げ勝った。

優勝決定戦の相手・堀ノ内は同じ埼玉地区の1年先輩。しかし年齢は一緒に同じ左利きとあって、日ごろから練習をともにして切磋琢磨し合う親しい間柄だ。

堀ノ内はツーフィンガー投法だが、ライン取りも球質もほぼ同じ両者の戦いは終始互角の大接戦となった。堀ノ内はノーミスも中盤でことごとく⑦のピンに嫌われ、ストライクはダブル1回で計4個。対する志摩は9フレで⑦のピンをカバーミスしたものの、ダブル2回を含む計6個のストライクを決めて堀ノ内を1ピン差退け、KUWATA CUP以来2年ぶりの2勝目を挙げた。

「最後は一度優勝を経験していた分の差。彼(堀ノ内)とこの大舞台の優勝決定戦で投げ合えたことを誇りに思います」優勝ボール: STORM IQ ツアー・エディションII

「諦めたら終わり」とQUEEN姫路

女子の優勝は「またしても」姫路だった。それも予選から終

始トップの座を守り切ったの完全V。だが、8年ぶりの公式戦Vを懸けて挑んできた小林との優勝決定戦は、本人が「大会を通じてワースト1位のゲームだった」と自嘲する内容で、冷や汗ものの展開となった。

練習ボールでは左右のレーンとも完璧にアジャストしていた姫路だが、「辛うじて右のほうがピンが飛ぶと思って、10フレにくるように選択した」ところ、まさにそのとおりの結果に。左レーンの9本スペアと右レーンのストライクが交互するダッチマンが終盤の8フレまで続いた。

「左レーンは少しずつライン



▲予選から終始トップを守り切ったの完全Vにも「優勝を重ねるたびに怖くなっていく」と姫路

を変えていったけど、全然飛ばなかった。7フレでボールを替えようと思ったが、マーク数で並んでいたのを替える勇気がなかった」という姫路は、5フレから3連発を決めた小林を見て、9フレでついにボールチェンジ。見事ストライクでダブルとし、勝利への扉を開いた。

そこで安堵したか、それまで完璧だった右レーンの10フレ1投目は「今大会中いちばんの失投」でど真ん中に！しかしラッキーなピンアクションでターキーとなり、姫路は3週間

の千葉オープン女子に続く2連勝&大会2連覇で、通算勝利数を歴代4位タイの27とした。

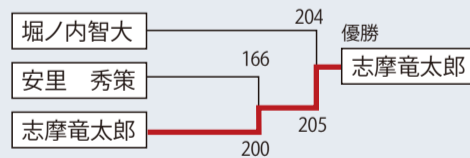
「『また姫路か、もういいよ』と思う人もいるでしょう(苦笑)。でも、私自身が『もういいや』と思って諦めたらそこが最後、選手生命の終わりがくる。それがいつになるのか、自分でもドキドキしている。今回もいろいろ理由をかき集めて、自分を奮い立たせました」

優勝ボール: STORMトレンド2/Pro-amマジョリティ・ブラック



▲(左)8年ぶりの4勝目を逃した小林。結果的には3フレ⑨⑦ベイスプリットのカバーミスが命取りとなった(右)6フレからの4連発で勝利を目前にしながらかつ場のミスで自滅の中島。「10フレはマークできなかったら勝ちと分かっていたので、無意識に力んで投げミスしてしまった」

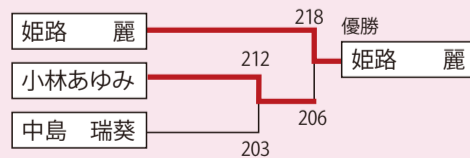
●男子決勝ステップラダー



●男子優勝決定戦

堀ノ内智大	8	9	3	4	5	6	7	8	9	10
	19	39	68	88	107	126	144	164	184	204
志摩竜太郎	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	39	59	88	108	128	157	176	185	205

●女子決勝ステップラダー



●女子優勝決定戦

小林あゆみ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	39	48	68	98	126	146	166	186	206
姫路 麗	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	60	80	100	120	140	170	199	218